

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		特別保育事業						予算事業名		地域子育て支援事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	子ども・子育て支援法			
				03	02	02	2201	経常経費		子ども・子育て支援交付金交付要綱（国）			
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分	主要事業				
		1-3安心して子育てできる児童福祉の充実（児童福祉）							重点事業				
		②保育環境の充実						担当課係等	子ども福祉課				
		1保護者のニーズに合わせた保育サービスの充実							保育係				
事業期間		継続（年度～年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
保護者の子育てと就労等の両立を支援するとともに，児童の健全な育成に寄与し，安心して子どもを産み育てることができる環境を整える。							病児保育については，子どもが病気の時でも休めない保護者が増加する中，事業のニーズが高まっており県西地区においても事業を実施しようとする自治体もある。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
特別保育事業（病児保育・延長保育等）を病院及び保育施設等に委託や補助を行う。							保育所等における通常保育の範囲を超えて，保育を必要としている保護者						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							共働きやひとり親家庭が増加する中で，仕事と子育てを両立するためにニーズの高い事業である。 病児保育の年間利用延べ人数は，平成27年度746人 平成28年度733人 平成29年度1073人，平成30年度1095人，令和元年度1,148人。小山市の新小山市民病院との相互利用の連携（平成28年4月～）及び水曜日の開室（平成29年4月～）により，更なる利用者増が見込まれる。						
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】					
○病児保育事業（委託） ○延長保育事業（補助）				○病児保育事業（委託） ○延長保育事業（補助）				○病児保育事業（委託） ○延長保育事業（補助）					

■事業費

		R01年度		R02年度				
財源内訳	国庫支出金	4,978		8,374				
	県支出金	4,978		8,374				
	地方債	0		0				
	その他	0		0				
	一般財源	7,194		8,375				
歳入計（千円）		17,150		25,123				
歳出内訳	節（番号＋名称）		金額（千円）		金額（千円）			
	12 委託料		14,934		19,408			
	18 負担金補助及び交付金		2,216		5,715			
歳出計（千円）（A）		17,150		25,123				
伸び率（％）				46.48				
備考	総合計画 57ページ 予算書 87ページ							

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	延長保育実施施設数	施設	目標	8.00	8.00	8.00
	市内全園において延長保育を実施する。		実績	3.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	病児保育利用者数	人	目標	1,200.00	1,200.00	1,200.00
			実績	1,148.00	0.00	0.00
	延長保育利用者数	人	目標	4,300.00	4,300.00	4,300.00
			実績	4,261.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	核家族、共働き家庭が増加し、仕事と子育てを両立するための対応が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	民間でも可能である。
	手段の妥当性	A 妥当である	
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	国から1/3、県から1/3の補助がある
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
延長保育、病児保育とともに定着してきた事業である。今後も関係機関と連携し、保護者が利用しやすい事業としていく。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
病児保育事業については、幼児教育・保育の無償化対象事業になっており、今後も幅広く利用されることが考えられ、利用者のニーズに沿った事業を展開していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 幼児教育無償化・女性の就業率アップにより需要が高まっている。更なる体制整備に努める。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	